

## 淡路の害虫 その(1)

ミナミアオカメムシ (*Nazara viridula*)

藤 富 正 昭

この稿は、堀田、登日両氏の強いすすめもあり、定期購読者だけであってはならないという私の気持ちも手伝い、微力ではあるが投稿し、できれば連載していきたいと考え書くことにした次第であります。

私が農業試験場淡路分場に、虫害担当研究員として赴任したのは、昭和48年4月のことで淡路の害虫の発生については、微かな知識しかもっていなかった。カメムシ類については前任者の足立氏(現県農業総合センター)が、三原町榎列の水稻早期栽培地帯で、収穫した米に斑点米が発生し、トゲシラホシカメムシ、シラホシカメムシ、ホソハリカメムシに起因することを、すでに報告していた。

昭和49-51年にかけて、全国的にカメムシ類の大発生が認められ、果樹でも水稻でもその被害が報告されていた。

私とミナミアオカメムシとの出会いは、着任間もない、48年6月、当時の洲本病虫害防除所長春江氏から、「津名でえらいガイダがわいとる」との報告があり、早速津名町佐野へ出向いた。そして、キンセンカ採種ほにおいて驚くべき状況に出合った。採取目前のキンセンカ子実には、カメムシ幼虫が群がっており、捕虫網のすくい取り10回振り、200~300頭がまたたく間に採集できたのを覚えている。採集したカメムシ幼虫を莢インゲンで2世代飼育した。始めは、アオクサカメムシとミナミアオカメムシの両種が形態上類似しているため判別は困難であったが、和歌山農試、東氏に同定していただき、ミナミアオカメムシであることが解った。

ミナミアオカメムシは、南方系の害虫で、日本では、九州、四国、和歌山県南部に分布が知られており、淡路島での発生は、日本ではほぼ最北限と考えられた。

本虫が、津名町に侵入した経過はよく解らないが、地元農家の話しによると、斑点米の発生は47年頃からであり、以前は問題となっていない事から、四国もしくは和歌山から侵入したと推定され、淡路で最も暖い津名町のキンセンカ栽培地帯で定着したのではないかと考えています。その後の分布調査で、東浦町仮屋、津名町佐野、生穂に発生が認められた。50年以降発生は漸減し、52年の調査ではキンセンカ採種ほ、出穂した水稻で、全く発生を認めず、斑点米の被害も著しく減少した。48年~51年の4年間の発生からして津名町に定着したかに思えたが昨年

の発生からみて一応終息したのではないかと考えています。

しかしながら、今後の発生に十分注意をする必要があると思います。

水稲におけるカメムシ類による斑点米の発生は、淡路島では、三原町、津名町といった早期栽培水稲と普通期栽培水稲の混在するところや、それに加えて花栽培の複合経営が行なわれている所に被害がでるということに注意する必要があります。

ミナミアオカメムシが津名町に侵入し、加害を認めた作物は、イネ、カーネーションの蕾、キンセンカ子実、スターチス等であり、イネでの被害は、玄米中の斑点米混入率で30%を越すほ場もみられ(昭和49年津名町佐野)米質検査に出すことすらできない状況であった。カーネーションでも蕾の吸汁により開花しなかった花もでた。又キンセンカ種子生産においても、不稔種子が多発した。

## 編 集 後 記

▽ 遅くなりましたが '77年度の2号目をお届けします。

▽ 先日、建設中の柏原山林道を登ってみて、破壊の凄まじさを目の当たりにしました。島の各地で、このような自然破壊が、着実に進行しています。一日も早く島のFaunaを明らかにしたいものです。(T)

### P A R N A S S I U S No.18

1978年1月30日 印刷

1978年2月2日 発行

編集者 登 日 邦 明

発行所 淡路昆虫研究会

〒656-21 兵庫県津名郡津名町大町畑235  
登 日 方

振替 神戸49591

印刷所 れいめい社

〒656 洲本市本町5丁目1番24号